

第4次札幌市みどりの基本計画の策定について

1. 前回部会の振り返り（いただいたご意見）

札幌市のみどりの評価について

現状、札幌市はどこまで到達し、評価される都市になっているか、市民に対して到達点を示すまとめた文章が一つほしい。
この世界が憧れる都市景観をどのようにつくってきたのかという自己点検評価がないので、論点がぼやける。

2ページ
「これまでの札幌のみどりづくり」
にまとめました。

参考資料「主な検討事項」の1. 市街化区域（民有地緑化）のみどりについて

都心の中のオープンスペースや緑地は少ないが、山に囲まれていることによって、目に入る緑は一定の量がある。
都市景観を創り出すみどりとは何かという部分がはっきりしていない。
観光客の誘致に関し、世界レベルか、日本国内でトップを目指すのか、目標を持ったほうが良い。
オープンスペースに人が滞留し、マルシェ、お祭りをするという行動をどう引き出していくのか、人々が活動する営み自体を引き出す必要がある
都市のみどりを楽しめるような情報が展開されていない

3ページ
「都心の緑化について」
にまとめました。

資料2 第4次札幌市みどりの基本計画の構成（案）について

意義、課題、基本理念、将来像、施策の関係性を整理してほしい
そもそもどういう観点でこの四つが出てきているのか、わかりにくい

5ページ
「基本計画の構成(案)」
で修正案についてまとめました。

その他

- ・市街化調整区域のみどり
- ・生物多様性
- ・農地のみどり
- ・計画の見直し時期等

次回以降
「施策」・「目標指標」
「中間答申」の議論に
活かしていきます。

2. これまでの札幌のみどりづくり みどりの評価

■明治期

市民の逍遥地として札幌市初の公園、偕楽園を整備
大通公園、円山公園、中島公園を整備

今も市民の憩いの場、札幌の原風景となっている



■大正期以降

大正時代：旧都市計画法が定められる。
札幌市の都市計画は、基盤の目を基本とした街路づくりと、住区計画等に基づく計画的な公園の配置を行っており、全国でも極めて先進的なものであった。

市街化区域内に計画的に都市公園が配置され良好な住環境を形成している

■公園の配置モデル図



中央区の既存市街地は人口増加が進み公園が不足している。

■まちの拡大期

戦後は、町村合併や冬季オリンピック札幌大会の開催などにより人口が増加し、郊外に住宅地が開発され、まちが拡大していった。

1982年(昭和57)年、市街地を緑の帯で包み込む「環状グリーンベルト構想」を提唱し、みどりの保全や造成を進めてきた。



大規模公園を含む環状グリーンベルトがほぼ完成し、河川や道路緑化でつなぐネットワークが形成されている

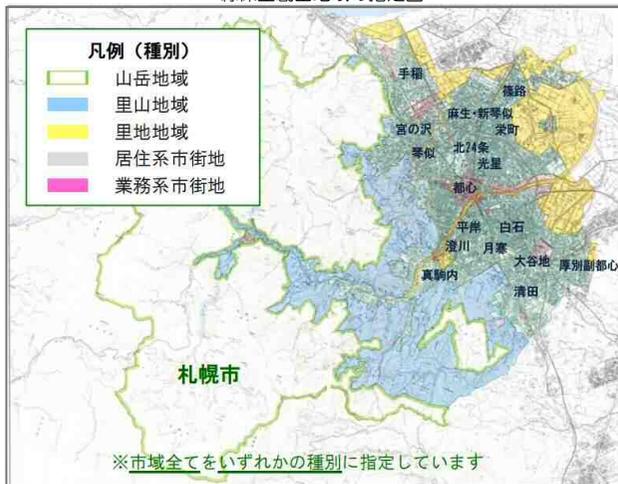
今後は、特性に応じた活用ニーズに応じた機能転換が必要

■市内全域のみどりを保全

平成13(2001)年策定の「緑の保全と創出に関する条例」にもとづき、市域を5つのエリアに分類し、それぞれ緑化率を定め、開発の際に緑化を義務づける制度。国の法律改正に先駆けて制定した。

規制制度により、開発によるみどりの喪失を抑制し、みどりを創出している。

緑保全創出地域の指定図



■山並みを保全

市街地と奥山の間にある里山地域を風致地区などに指定し、開発志向の強い地域や自然環境の保全が必要な森林を都市環境林として取得し保全してきた。

市街地の拡大を抑制し、美しい山並みを保全している。



■市民との協働によるみどりづくり

「第3次札幌市みどりの基本計画」では、「つなぐ」をキーワードに、市民と行政、市民同士が連携する市民との協働を掲げた。公園ボランティア、森林ボランティア、タウンガーデナーの支援を行ってきた。

団体や個人のボランティアに登録者数は増えている

市民同士をつなぐコーディネーターや、参加しやすい仕組みが必要



森林ボランティア



タウンガーデナー

3. 都心の緑化について

■札幌市における既成市街地(都心)のみどりの位置付け

札幌市まちづくり戦略ビジョン(平成25年)

| | | |
|----------|--|------------------------|
| 目指すべき都市像 | ●北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち ●互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち | |
| 7つの分野 | 地域 | 地域での支え合いとつながりづくり |
| | 経済 | 暮らしと雇用を支える経済の発展 |
| | 子ども・若者 | 将来を担う子ども・若者の健やかな育み |
| | 安全・安心 | 安心して暮らせる「人に優しい」まちづくり |
| | 環境 | 次世代へつなげる持続可能なまちづくり |
| | 文化 | 文化芸術・スポーツによる創造性の育み |
| | 都市空間 | 魅力と活力を持続的に高める集約型のまちづくり |

第7節 都市空間 ～魅力と活力のある都市の形成～

現状と課題を踏まえた重要な視点

— 魅力と活力を持続的に高める集約型のまちづくり —

自動車を持たない高齢者なども安心・快適に暮らせるとともに、市民生活や都市活動のエネルギー効率を高めるためには、公共交通を中心とした集約型のまちづくりが必要です。

国内外から多くの人々が訪れ、様々な交流や活動が活発に展開される都市となるためには、札幌の顔である都心部の魅力と活力を高めるとともに、まちにうるおいを与えるみどり豊かな都市空間の創出や、良好な都市景観の形成が重要です。

また、人口減少・超高齢社会を迎える中でも、市民生活や都市活動を支え続けるためには、上下水道などの都市基盤施設¹⁰³や市有建築物の計画的かつ効率的な維持・保全と併せて、特に市有建築物については、機能の複合化など、効果的かつ効率的な再配置が必要です。

基本目標 22 札幌の顔となる魅力と活力あふれる都心にします

将来のまちの姿

▶市民を始め、国内外からも多くの人々が訪れる都心には、高次な都市機能が集積しているとともに、多様な活動を支える場など、人を中心とした魅力ある空間が形成されています。

▶創造的な活動の発信や担い手の育成など、文化と活力を創造する取組が展開されています。

▶豊かなみどりが充実することにより、うるおいや風情が感じられる都心にふさわしい街並みが形成されています。

▶エネルギーの効率的な利用などにより、先駆的な環境低負荷型のまちづくりが展開されています。

▶市民や企業などが主体となった都心のまちづくりにより、それぞれの地域特性に合わせた良好な環境が形成され、地域の価値の維持・向上が図られています。

▶都心は北海道の中心としての役割を果たしながら、国内外に札幌・北海道の魅力を発信し続けるとともに、市民生活の豊かさを享受できる場が創出されています。

基本目標 23 都市の価値を高めるみどりを生かしたまちにします

将来のまちの姿

▶市街地では、うるおいと安らぎを与えるみどりと、憩いや交流の場として活用されるオープンスペース¹⁰⁵が十分にあり、それらを生かした、市民に親しまれる良好な都市景観が形成されています。

▶市街化調整区域¹⁰⁶では、森林や農地などの保全が図られているとともに、その特質を生かした土地利用が行われています。

札幌市都市計画マスタープラン(平成28年)

4 総合的な取組の方向性

1 魅力があふれ世界を引きつける都心

- ◆世界が注目する都心強化の推進
- ◆みどりが感じられ、低炭素化の進んだ都心の形成
- ◆都心でのライフスタイル・ワークスタイルの環境形成
- ◆持続的な都心発展の仕組みづくり

2 多様な交流を支える地域交流拠点

- ◆各拠点の特性に応じて優先度を考慮した都市開発の誘導と基盤整備
- ◆拠点を中心とした交通機能の向上
- ◆にぎわい・交流が生まれる場の創出
- ◆環境に配慮した取組の推進

3 利便性が高く魅力ある複合型高度利用市街地の実現

- ◆高密度で質の高い住宅市街地の形成
- ◆集約型居住誘導区域の設定による集約型の居住機能の集積

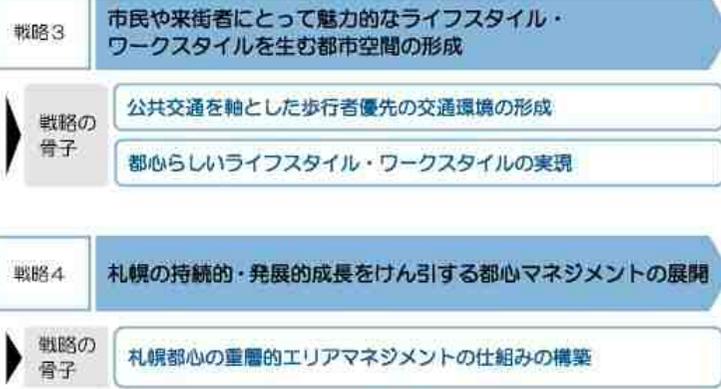
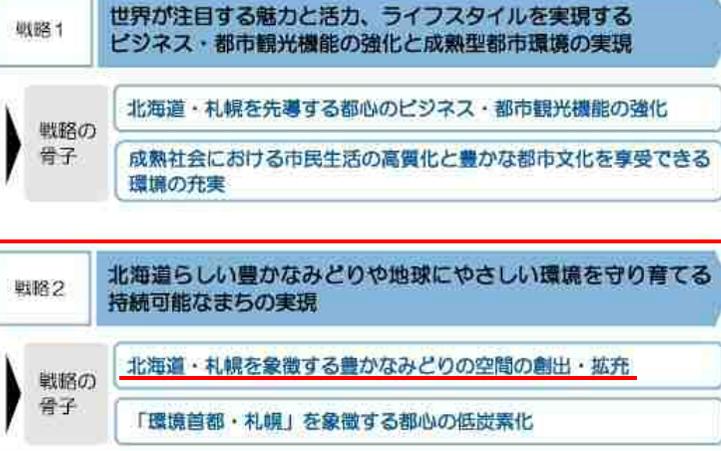
4 地域特性に応じた一般住宅地・郊外住宅地の居住環境の維持・向上

- ◆良好な居住環境の維持・向上
- ◆持続可能な居住環境形成エリアの設定による持続的な地域コミュニティの形成

5 市街地の外的自然環境の保全と活用

- ◆良好な自然環境の維持・保全・創出
- ◆市街地の外ならではの特質を生かす土地利用の検討

札幌市第2次都心まちづくり計画(平成28年)

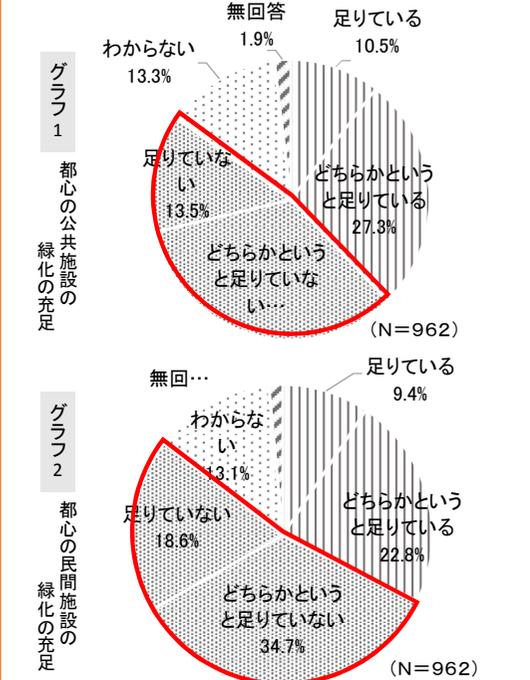


■札幌市のみどりに関する市民ニーズ

市民アンケート(平成30年)

札幌のみどりで不足していることとして、「公園の再整備と機能の見直し」(34.6%)、「市民のニーズに対応した公園の充実と管理・運営」(30.6%)、「札幌の気候・歴史・風土に合った魅力的な景観の保全と創出」(26.9%)に次いで、「都心の施設(建物)のみどりの充実」(24.2%)が挙げられている。

また、都心の公共施設の緑化の充足についての設問に対しては、「足りていない」「どちらかというと足りていない」が約47%を占め(グラフ2)、「都心の民間施設の緑化の充足」については、約53%と半数以上であった(グラフ2)。



市民ワークショップ(平成30年)

市民に札幌のみどりの印象について尋ねたところ、「まちなかのみどりが少ない」「都心部のみどりが少なく、心がさびれる」「都心の樹木のバランスが悪い」などの意見があった。

札幌市まちづくり戦略ビジョン等の上位計画の中で、都心の緑化が掲げられ、市民アンケートや市民ワークショップにおいても、都心のみどりの充実に対するニーズがあげられている。

都心部の緑化を緑化行政の課題として認識し、推進していく必要がある。

3. 都心の緑化について

～都心の緑化に関する事例（前回のご意見より）～

バンクーバーの取組

- 都市：カナダブリティッシュコロンビア州バンクーバー市
- 面積：114.71km²
- 人口：578,041人(2006年)

■「グリーンベストシティ」宣言

2010年のバンクーバーオリンピックを契機に、2020年までに地球に一番優しい都市を目指す取組。「環境に優しい食べ物や購買行動の促進」「生息地及び自然環境確保のための都市林の拡大」「社会的企業やグリーンビジネスの拡大」などの10項目が掲げられている。

■世界で最もグリーンな都市基金

市とバンクーバー財団が手を組み、目標分野における取組を資金面から市民を応援する仕組み。

【対象となった事例】



「屋上緑化し、養蜂が行われているバンクーバーコンベンションセンター」。



「植物や食べ物について学ぶためのガーデンを、生徒や教師、保護者で作成。」

■廃線が公園に変わる「グリーンウェイプログラム」

使用されていない鉄道敷地9キロメートルを市民のためのオープンスペースや徒歩・自転車専用道路(グリーンウェイ)とする整備計画。

▼グリーンウェイプログラムイメージ



Arbutus Greenway
#ArbutusGreenway

ポートランドの取組

- 都市：アメリカ合衆国オレゴン州ポートランド市
- 面積：376.5 km²
- 人口：583,776人(2010年)

■公園マスタープランの策定

1903年、公園マスタープランを策定し、公園の重要性や市民が街を美しくする義務、公園・緑地の役割や用途、あるべき姿、土地の確保などの詳細を示した。

1970年代には、都市圏成長管理政策を導入し、都市周辺部の農地や自然環境を保全しながら、コンパクトシティ化を推進している。

■エコディストリクトの推進

5～30街区からなる地区を一つの環境システムと捉えて施策を行う都市再生の手法。「地区内のコミュニティによる自助こそが都市環境を再生する力である」というコンセプトのもと、建物群やオープンスペース、街路、交通網、上下水網の間で協力、融通をしてエネルギーや水資料を大幅に節約し、同時に活気あるコミュニティを形成することを目的とする。

▼エコディストリクトイメージ



■先進的な緑化



小さな都市空間の緑化



雨水貯留・浸透機能を持つ公園



線路緑化



大きく成長した街路樹

首都圏の民間緑化事例

■商業ビルの屋上庭園 - 銀座シックスガーデン(東京都)



イベントなどでも利用できる芝生広場



高木中心のエリアに設置されたデッキ

■住宅街の中に位置する商業施設の壁面緑化

- グランツリー武蔵小杉(神奈川県)



周囲と調和した壁面緑化



テラス席の落ち着いた空間を演出

■商業施設の広場空間 - 三菱一号館広場(東京都)



飲食店などに囲まれた中庭
出典：LIXILビジネス情報HP



植樹樹や噴水周辺などに
ベンチが多く設置されている

■民間開発にあわせた人を呼び込む森 - 大手町の森(東京都)



水と空気の流れを変える「本物の森」

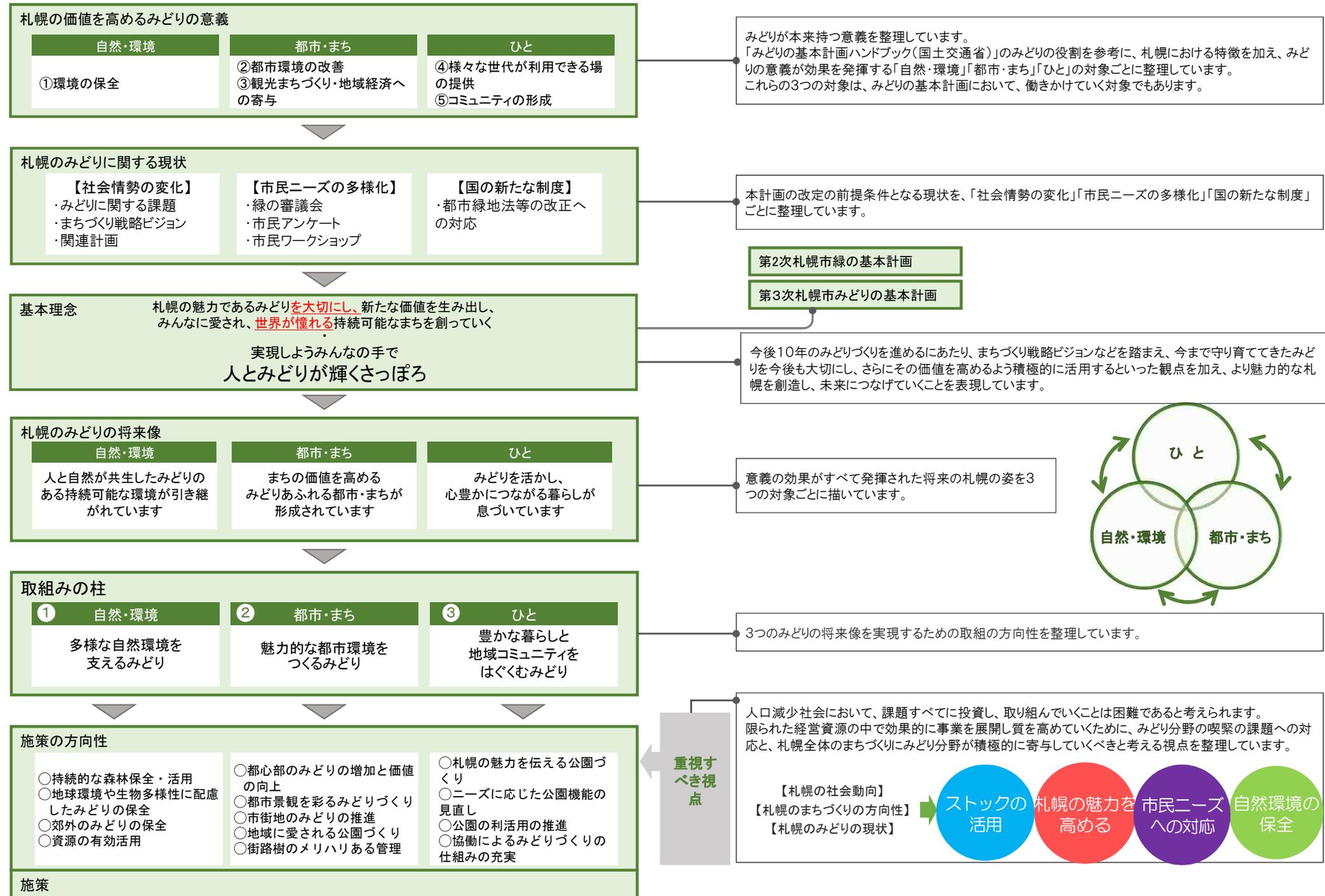


森(中央)と歩行者スペース(右側)

出典：東京建物HP

まちづくりにおいては、民間事業者が公共的な役割を担い始めている動きと連携していく必要がある。

■基本計画の構成(案)



■重視すべき視点

近年、札幌においても、都市の成熟期を迎え、人口減少社会の到来や少子高齢化の進行に伴う税収減や社会保障関係費の増大などが懸念されており、課題すべてに投資し、取組んでいくことは困難であると考えられます。限られた経営資源の中で効果的に事業を展開し質を高めていくために、**みどりの分野の喫緊の課題への対応と、札幌全体のまちづくりにみどりの分野が積極的に寄与していくべき**と考える視点を設定し、実効性の高い計画とします。

【背景となる社会動向】

- ・人口減少化社会の到来、少子高齢化
- ・人口構造の地域的な偏り
- ・市民自治の担い手減少
- ・市民ニーズの多様化、精神的豊かさへの希求
- ・世界都市としての外国人来訪者の近年の増加
- ・北海道新幹線の札幌延伸、冬季オリンピック等の開催招致(街並みの変化)
- ・地球規模の環境問題の深刻化
- ・施設の老朽化
- ・経営資源の制約
- ・公園緑地の量的充足
- ・P-PFI制度の新設

【札幌のまちづくりの方向性】

<まちづくり>

- 札幌市まちづくり戦略ビジョン
- 環境首都・札幌の推進

<都市づくり>

- 都市計画マスタープラン
- 立地適正化計画

<その他関連計画>

- 第2次札幌市都心まちづくり計画
- 第2次環境基本計画
- 生物多様性さっぽろビジョン
- 景観計画、都市農業ビジョン、福祉のまちづくり推進計画、地域防災計画
- スポーツ振興計画 等

【札幌のみどりの現状と課題】

<都心のみどり>

- ・施設の緑化率の向上
- ・魅力や活力の向上への波及

<市街地のみどり>

- ・緑化率の向上と維持管理の推進
- ・みどりの価値の向上、活用の推進

<郊外のみどり>

- ・生物多様性への配慮
- ・継続的な利活用に向けた体制・制度の見直し
- ・利用ニーズ、オーバーユースへの対応

<都市公園のみどり>

- ・多様なニーズに応じた公園づくり
- ・都市景観の向上に資する公園づくり
- ・安心安全に遊べる場の提供

<多様な主体とみどり>

- ・多様な主体によるみどりづくりの新たな方策
- ・継続的に活動できる方策
- ・多世代がみどりに関わる機会の提供

目指すべき都市像

北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち
互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち

- ◆**地域** 地域での支え合いとつながりづくり
- ◆**経済** 暮らしと雇用を支える経済の発展
- ◆**子ども・若者** 将来を担う子ども・若者の健やかな育み
- ◆**安全安心** 安心して暮らせる「人に優しい」まちづくり
- ◆**環境** 次世代へつなげる持続可能なまちづくり
- ◆**文化** 文化芸術・スポーツによる創造性の育み
- ◆**都市空間** 魅力と活力を持続的に高める集約型のまちづくり
 - ・札幌の顔となる魅力と活力あふれる都心
 - ・都市の価値を高めるみどりを生かしたまち
 - ・機能の集約化・複合化、民間施設との連携

都市づくりの基本目標

世界都市 / コンパクトな都市 / 札幌らしいライフスタイルが実現できる都市

取組の方向性

- 1 魅力があふれ世界を惹きつける都心
- ・みどりが感じられ、低炭素化の進んだ都心の形成

住居誘導の基本的な考え方

人口密度の維持/集合型の住居機能の集積
都心に都市機能を集約

- ◆**戦略1** 世界が目目する魅力と活力、ライフスタイルを実現するビジネス・都市観光機能の強化と成熟型都市環境の実現
- ◆**戦略2** 北海道らしい豊かなみどりや地球にやさしい環境を守り育てる持続可能なまちの実現
- ◆**戦略3** 市民や来街者にとって魅力的なライフスタイル・ワークスタイルを生む都市空間の形成
- ◆**戦略4** 札幌の持続的・発展的成長をけん引する都心マネジメントの展開

札幌の環境の将来像

次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市
「環境首都・SAPP_RO」

将来像を実現するための5つの柱

- ◆都市と自然が調和した自然共生社会の実現
- ・緑のネットワークによる生育環境の質の向上

<市民アンケート>

- ・札幌の魅力としての「緑が多く自然が豊か」という評価(市民意識調査)
- ・みどりのボランティア活動の参加促進、効果的な周知の必要性
- ・地域コミュニティの形成に寄与する公園の活用
- ・都心施設のみどりの充実
- ・公園の再整備と機能の見直しの不足

<市民ワークショップ>

- ・公園の活用による地域コミュニティの形成
- ・身近な交流、コミュニティづくりへの活用
- ・心を豊かにするみどり
- ・安心安全な住環境の形成
- ・札幌らしさを観光につなげる
- ・自然と人の共生
- ・市民の視点、観光客の視点で守り育てる自然・環境

都市機能の集約

公園緑地の量的充足

P-PFI制度の新設

機能の集約化・複合化

民間施設との連携

ストックの活用

魅力と活力を持続的に

都市の価値を高めるみどり

世界をひきつける都心

外国人来訪者の増加

新幹線の札幌延伸

オリンピック等の招致

札幌の魅力を高める

人口構造の変化

市民ニーズの多様化

地域のつながり支えあい

安心で人に優しいまち

市民ニーズへの対応

自然共生社会の実現

地球環境を守り育てる

生物多様性への配慮

市民・来訪者が守り育てる

自然環境の保全

重視すべき視点

①集約型のまちづくりを行う中で、今ある公園をより一層活用するとともに、まちづくりと連動してみどりのオープンスペースを創出する視点

公園緑地の整備は一定の水準にあり量的にはほぼ充足してきましたが、全てのみどりの機能を維持することは、経営資源的に制約があります。今後は公園を新しく作っていくことよりも、今ある公園緑地などの個性に合わせて、大きな公園では民間活力を導入し、小さな公園は地域の広場として貸し出すなど、より市民に使っていただくことを重視していきます。また、都心や地域交流拠点などに機能を集約する方向性が示されるなか、みどりの分野においても、まちづくりと連動した複合化や都心部の開発に合わせてみどりのオープンスペースを創出するなど、うるおいのある魅力的な空間を効果的に創出していく視点が必要です。

②札幌の活力を維持していくため、都市の魅力をもつ空間を、都心を中心に創出し、活用していく視点

人口減少化社会を迎え、都市の縮退が懸念されるなか、札幌が活力あふれる都市であり続けるためには、北海道新幹線の札幌延伸や冬季オリンピック等の開催誘致などを契機として、都市の魅力を高める必要があります。そのために、みどりの分野では、市民や観光客が多く訪れる都心において、都市基盤としてのみどりのあるべき姿を市民・企業・公共施設の担い手に示し、まちづくりをリードするみどりを創出するとともに、市民や観光客が憩い交流し滞留する魅力的な空間として活用していく視点が必要です。

③人口構造の変化等に伴い市民ニーズが多様化する中、公園緑地に集うことで生まれる、優しい地域コミュニティを育む視点

人口構造の変化に伴い、市民ニーズが多様化しており、公園などの利用形態も変化しています。身近な公園緑地に集うことで、世代間のふれあいが生まれ、地域で支えあい、連携することで、誰もが住みよい地域コミュニティの創出が必要です。

④地球環境の保全や生物多様性のベースとなる自然環境を守り、教育の場、ふれあいの場として活用する視点

札幌では2008年に環境首都・札幌を宣言し、第2次環境基本計画においても「都市と自然が調和した自然共生社会の実現」を掲げています。先人が残してくれた札幌のみどりを今後も大切に守り育てていくためには、市民や来訪者が教育の場やふれあいの場として親しめるような活用に積極的に取り組んでいく必要があります。

■施策の体系(案)

※重視すべき視点ごとに色分けしています。
 青 : ストックの活用
 赤 : 札幌の魅力を高める
 紫 : 市民ニーズへの対応
 緑 : 自然環境の保全

取組みの柱

施策の方向性

施策のイメージ

1 自然・環境

多様な自然環境を支えるみどり

◆ 人類の営みの礎であり、多様な生物の生息・生育空間となっている自然環境を保全するとともに、新たな利活用の推進を図ります。

- 持続的な森林保全・活用
- 地球環境や生物多様性に配慮したみどりの保全 ●
- 郊外のみどりの保全
- 資源の有効活用

- みどり資源の保全推進 ●
 - ・ 都市環境林の取得
 - ・ 主要な都市環境林の管理計画を策定 ●
 - ・ 都市環境林の新たな活用（レクリエーション機能）手法の検討
 - ・ 自然歩道のあり方を検討
- 白旗山都市環境林の利活用の推進 ● ●
 - ・ 白旗山都市環境林基本計画の改定
- 森林の保全方針検討
- 森林環境譲与税に係る事業の実施
- 都市環境林内の人工林の間伐等の推進 ●
- 様々な世代が気軽に参加できる森づくり体験の実施 ●
- 企業、団体など多様な主体との協働による森づくり
- 生物多様性に配慮したみどりの保全と創出
- 自然観察会や学習会の実施
- 造園工事における特定外来生物の適切な処理
- さけ科学館の運営
- 農地の保全と活用
 - ・ 遊休農地の利活用の促進
 - ・ 市街化区域内及び周辺農地の活用
- 落ち葉の堆肥化
- 伐採木・剪定枝等の有効活用（配布・売却）

【中間評価】「森林保全活動に参加した市民の割合」について「森林レクリエーションを通じて森林保全の裾野を広げるため、アンケート等実態把握と、新たな施策を検討します」

・ 法改正に伴う新制度として創設された「森林環境譲与税」の運用

【中間評価】「森林保全活動に参加した市民の割合」について「親子での参加を促すなど広報活動の充実を図ります」→H30年から親子の森づくり(育樹)体験ツアーを開始する予定。

2 都市・まち

魅力的な都市環境をつくるみどり

◆ 市民や事業者、大学等と共に、街中の緑化や住宅地・街路樹、公園などのみどりづくりを通じて、にぎわいや憩いを感じられる魅力的な都市環境の形成を進めます。

- 都心部のみどりの増加と価値の向上
- 都市景観を彩るみどりづくり
- 地域に愛される公園づくり
- 市街地のみどりの推進
- 街路樹のメリハリある管理

- 都心のみどりの緑化方針（公共施設含む） ●
 - 公共施設の緑化の推進 ●
 - みどり豊かなまちづくり支援 ●
 - ・ 民有地緑化への助成
 - ・ 民有地緑化のマニュアル作成
 - ・ 民有地の優良事例の紹介
 - 他部局（特に都市計画部門）と密接に連携
 - グリーンインフラの導入検討
- 花と緑の都心まちづくりネットワーク事業 ● ●
 - ・ 都心のみどりの景観及び都市の価値の向上
 - ・ 都心部の公園や民有地の広場で地域交流を活性化
 - ・ 都心部でのおもてなし緑化
- 主要公園のユニバーサル化推進
 - ・ バリアフリー化促進（重要度、優先度に基づいて実施）
- 主要公園の管理運営の在り方の整理
- 民間活力による公園の賑わい、新たな魅力創出（P-PFI等） ●
- 公園利用サービスの向上
- 公園の新たな管理運営の推進
- 新たな収入源の確保（ネーミングライツ、駐車場有料化等）
- 市街地のみどりの緑化方針
 - ・ みどりの持つ機能別の詳細調査
 - ・ みどりの役割、価値のPR
 - ・ 機能調査に基づき市街地の緑化と保全の方針
- 札幌市街路樹基本方針の推進
- 健やかな道路緑化
 - ・ 都心部や主要幹線道路にある街路樹の重点的な管理 ● ●
 - ・ 街路樹として適性の高い樹種への更新 ●
 - ・ 狭い歩道などにある街路樹の撤去 ●
- 街路樹管理のCSR活動
- 街路樹剪定枝の再資源化

【中間評価】「都心部樹林率」について「民間開発や公共施設の緑化について検討します」

・ 都市環境向上機能を併せ持つ花壇の実験等により、今後の導入可能性等の検討を行う。

・ ユニバーサルデザインの需要の高まりなど、多様な利用者への対応が求められる。
 ・ 重要度、優先度に基づいて多目的バリアフリートイレへの改修を進める。

・ 管理運営や公園施設の老朽化、利活用の推進など、様々な課題に対応し解決していくために、民間活力によるにぎわいの創出などを検討する。

・ 今後、宅地の細分化による個人宅のみどりの減少や街路樹の減少が予想される中、量から質へのみどりの価値をより詳細に評価し、効果的に、みどりの活用につなげていく。

【中間評価】「都心部樹林率」について「街路樹基本方針に基づき街路樹のボリュームアップに努めます」

■施策の体系(案)

※重視すべき視点ごとに色分けしています。

- 青 : ストックの活用
- 赤 : 札幌の魅力を高める
- 紫 : 市民ニーズへの対応
- 緑 : 自然環境の保全

取組みの柱

3 ひと

豊かな暮らしと
地域コミュニティをはぐくむみどり

◆多様なニーズを的確にとらえ、公園や森林など身近なみどりを活用できる環境を積極的に作り、誰もが住みよいまちづくりを通して、豊かな暮らしと地域コミュニティの創出を図ります。

施策の方向性

- 札幌の魅力を伝える公園づくり
- ニーズに応じた公園機能の見直し
- メリハリのある公園整備 ●
- 公園の利活用の推進
- 協働によるみどりづくりの仕組みの充実

施策のイメージ

- 公園造成
 - 地域と創る公園再整備
 - ・公園施設の適正化（施設数削減、機能分担、配置転換）
 - ・公園の特性に応じたニーズへの対応
 - ・公園施設長寿命化計画の策定、実施
 - 地域に応じた身近な公園整備（中央区での新規公園整備）●
 - 他部局と連携した公園によるまちづくり
 - 市民緑地認定制度の検討
- 公園機能の再編
 - 狭小公園の必要に応じた統廃合の検討
 - 狭小公園をコミュニティスペース・ガーデンとして利用する仕組みの検討 ●
 - 公園の特性に応じたニーズへの対応 ●
 - 安全・安心な公園再整備
 - 多様な機能を発揮する公園づくり
 - 公園樹木の健全化推進
 - 公園樹木の取り扱い方針の改定
- 既存市街地等の公園未充足地域での街区公園整備 ●
- 地域ニーズ・公園機能向上・コストダウンを勘案した公園の統合の検討 ●
- 公園施設長寿命化計画の策定、実施による計画的な公園施設管理
- 「公園の活性化に関する協議会」の設置検討（法改正に伴う新制度）●
- ICT活用（公園案内にQRコード等）
- プレイパークの場の提供
- 多様な社会貢献の機会の創出（CSR、寄付制度）
- ボランティア活動の促進
 - ・ボランティア活動促進計画の策定と実施 ●
 - ボランティアリーダーの育成
 - ・有償ボランティアの検討
 - 森林ボランティアへの支援 ●
 - タウンガーデナー登録制度
 - 大学等との連携
 - 効果的な情報発信の検討と推進 ●

【中間評価】
「公園機能の見直しを図った公園の数」について
「見直しのためのルールづくりを行い(H30年度実施予定)平成32年度までに約300か所増を目指す。(H32=294か所)」

・安全安心で、都市景観の向上に資する公園づくりにあたり、公園樹木の点検・診断を実施し、適切な管理につなげる。

【中間評価】
「みどりづくりなどに参加した市民の割合」について
「イベントの際に、わかりやすいHPを作成するなど広報の充実を図り参加意欲を高めます」

・ボランティアとの意見交換会を開催し、活動推進計画を策定。参加しやすいボランティア活動を目指す。

【中間評価】
「みどりづくりなどに参加した市民の割合」について
「活動のリーダーの育成に努めてまいります。」

■基本理念(案)

札幌のみどりにおいて大切な理念を以下のように掲げます。

これまで守り育ててきたみどりを継続して大切に引き継ぎ、さらに、その価値を高めるよう積極的に活用するといった新たな視点を加え、より魅力的な札幌を創造し、未来につなげていくことを表現しています。

札幌の魅力であるみどりを大切にし、新たな価値を生み出し、
みんなに愛され世界が憧れる持続可能なまちを創っていく

実現しようみんなの手で
人とみどりが輝くさっぽろ

■札幌のみどりの将来像(案)

札幌の価値を高めるみどりの意義、札幌のみどりに関する現状、基本理念(案)をふまえ、本計画で目指す「札幌のみどりの将来像(案)」を以下のように設定します。
「自然・環境」「都市・まち」「ひと」の3つの視点は密接に関係しており、各将来像の実現に向けて取り組むことで、相乗的効果が高まります。

3つの将来像の実現に向けた取り組みにより、様々なみどりがあふれるまちで、多様な生き物と共生し、四季の変化を楽しむ人々の暮らしが札幌らしい魅力を形づくり、札幌での生活を市民が誇りに思い、来訪者にとっても魅力あるライフスタイルが国内外に発信されることで、世界が憧れるまちへと成長していきます。

自然・環境

人と自然が共生したみどりのある持続可能な環境が引き継がれています

- ◆みどりをもつ大気汚染物質の吸着や二酸化炭素の吸収源などの役割によって、地球環境の改善につながっています。
- ◆多様な生物の生育空間となるみどりのネットワークが形成され、人と自然が共生したみどりのある環境が後世に引き継がれています。

都市・まち

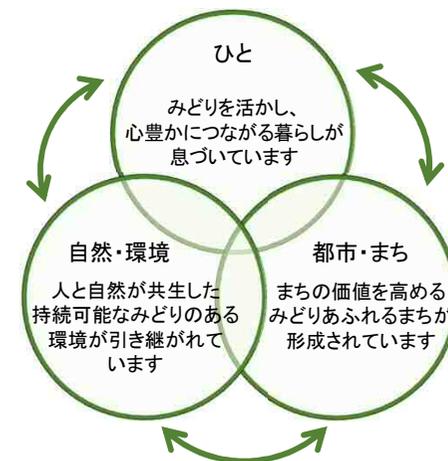
まちの価値を高めるみどりがあふれています

- ◆山並みや河川、公園など様々なみどりによって、ゆとりと安らぎ、季節の変化を感じられる札幌らしい景観が、市民一人ひとりの原風景を形成しています。
- ◆身近なみどりにより、良好な都市環境が形成されているとともに、地域防災力が発揮され、快適で安心安全なまちとなっています。
- ◆札幌を象徴する公園や自然などのみどりが、にぎわいの創出拠点として積極的に活用され、経済振興や観光振興が図られています。

ひと

みどりを活かし、心豊かにつながる暮らしが息づいています

- ◆みどり豊かなオープンスペースは、多世代の市民が集い、遊びや学び、交流の場として活用され、地域コミュニティが育まれています。
- ◆札幌らしいみどりが、人々の生活に溶け込み、まちへの愛着を持った心身ともに健康で魅力的な暮らしが息づいています。



3つの将来像の関係イメージ

市民ワークショップでいただいた意見を参考に文言を修正しています。

緑文字：市民WSを受け新たに追加

青文字：市民WSでも出された意見

「まちづくり戦略ビジョンと将来像のつながりが分かりにくい」という意見を参考に、戦略ビジョンの目指すべき都市像を継承しています。

まちづくり戦略ビジョンの目指すべき都市像

- ・北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち
- ・互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち